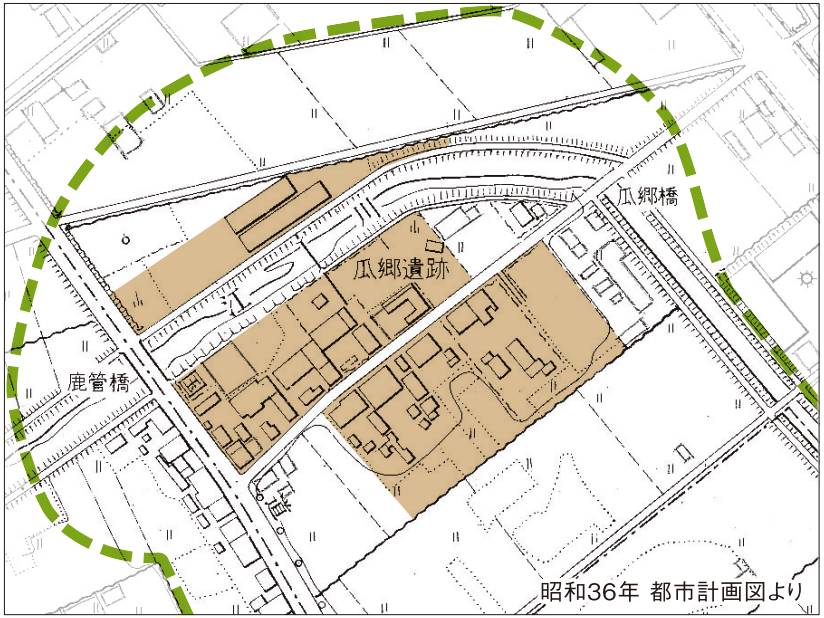
瓜郷遺跡の広がり



…瓜郷遺跡の範囲　…瓜郷遺跡史跡指定地範囲

国指定史跡 瓜郷遺跡（第3版）

【編集・発行】 豊橋市教育委員会　美術博物館
豊橋市文化財センター　TEL0532-56-6060
令和6年3月15日

※許可なく転載することを禁止します

文化財愛護シンボルマーク

国指定史跡

瓜郷遺跡（うりごういせき）

最初の復元住居が建てられた昭和29年頃のようす

豊橋市教育委員会

瓜郷遺跡の発掘調査

❖遺跡の発見

瓜郷遺跡は、豊橋市瓜郷町寄道・前川に広がる弥生時代を中心とした遺跡です。昭和11年の道路拡張工事の際に貝塚が発見され、いっしょに出土した土器から弥生時代の遺跡であることが知られるようなりました。昭和19年頃には、食料増産を目的に土地改良工事が進められ、遺跡のすぐ横を流れる江川の改修工事が行われました。なお、この時に大きな青銅器が出土したと言われています。

戦後、中断していた土地改良工事が昭和21年に再開され、この工事に伴ってたくさんの出土品があったことを地元の考古学者が確認しています。このことは東京大学の山内清男氏にも伝わり、会を組織して発掘調査が計画されました。

❖発掘調査の開始

瓜郷遺跡の第1回目の発掘調査は、昭和22年11～12月に行われています。これ以後の調査は、第２回目が昭和23年４月に、第３回目が同年11月に、第４回目が昭和24年４月に、第５回目が昭和27年10月に、それぞれ行われています。

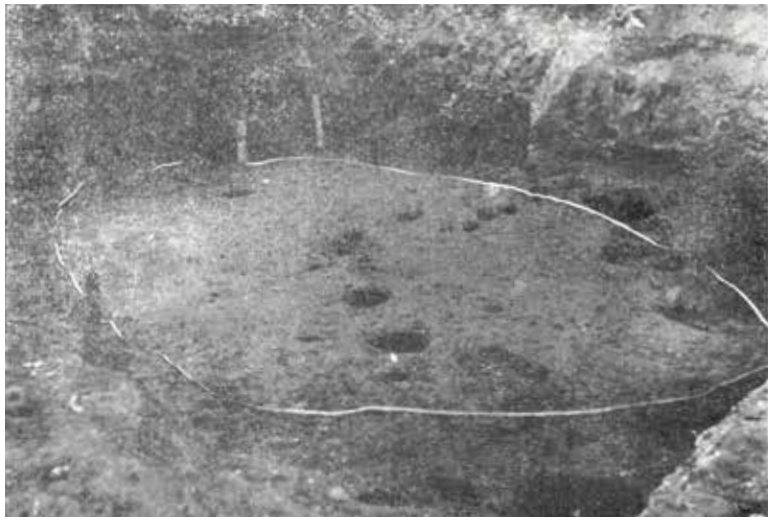
この間の発掘調査には、東京大学や明治大学、愛知大学などの教授や学生だけでなく、津田小学校をはじめとした地元の小学生や中学生、高校生も数多く参加していました。

第2回目の調査風景…江川の川底を排水しながら調査

調査当時の瓜郷遺跡遠望（北東から）…奥には旧東海道松並木も見える

❖発掘調査の成果

発掘調査は、新たに付け替えられる江川の川底を中心に行われ、住居跡や多くの穴、貝塚などが見つかりました。出土品では、各種の土器、石斧や管玉などの石器、鍬や弓などの木製品、ヤスや銛などの骨角器のほかに、焼けた米（炭化米）なども見つかっています。



第1回目の調査で発見された住居跡…公園の復元住居はこれを基に設計している

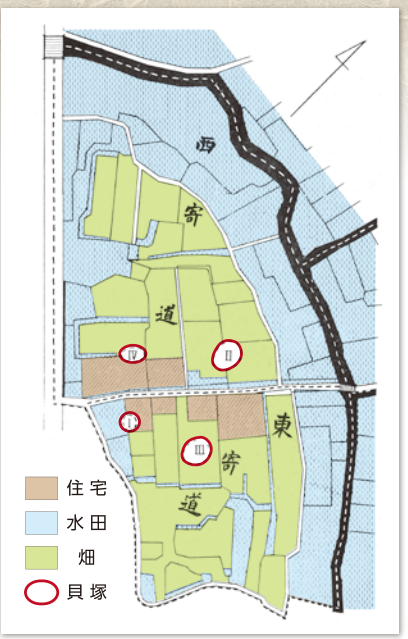
出土した炭化米

第5回目の発掘区調査風景

❖国指定の史跡へ

瓜郷遺跡が発見された当時は、弥生時代という日本で初めて米作りが行われた時代がようやく明らかになってきた頃です。この発掘調査は、静岡県の登呂遺跡とともに弥生時代の研究が進むきっかけとなる画期的なものでした。

これにより、瓜郷遺跡はその一部が昭和28年11月14日に国の史跡に指定されました。



耕地整理前の遺跡周辺のようす

トピック
―最新の発掘調査から―

国指定から70年以上が経ち、史跡周辺の状況も大きく変わってきています。

豊橋市教育委員会では、史跡の周辺部で発掘調査を行い、遺跡の広がりや内容の把握に努めています。

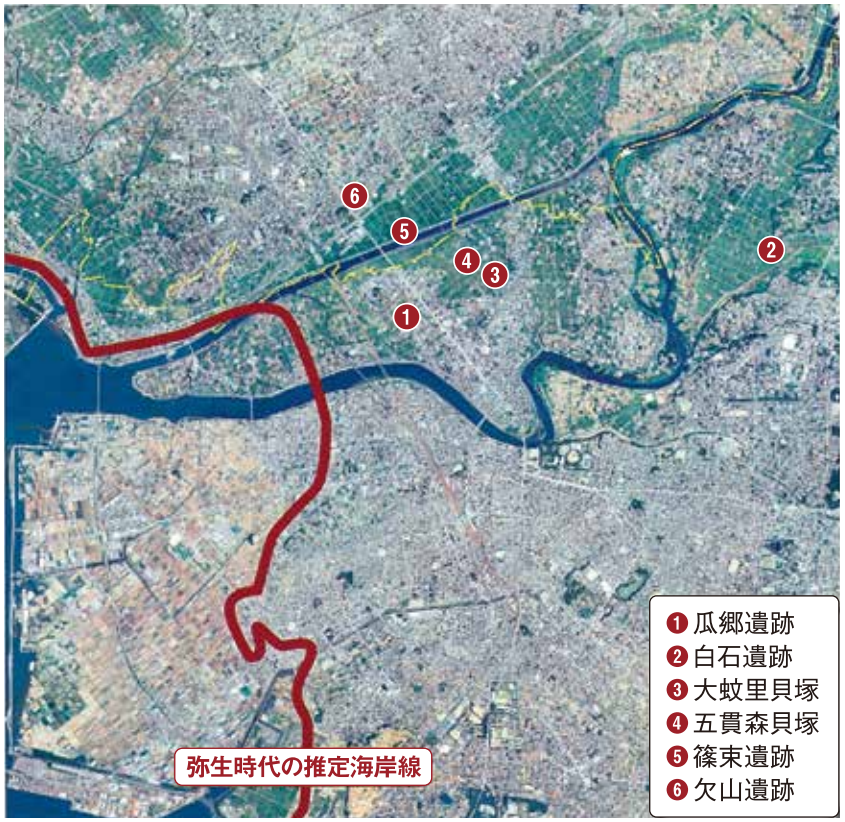
発掘調査は、土器などを傷つけないよう、手掘りで慎重に調査を進めています。

令和5年度発掘調査の土器出土状況

令和5年度発掘調査のようす

瓜郷遺跡と周辺の遺跡

瓜郷遺跡は、豊川の沖積低地の中でも周りよりやや高い自然堤防上にあったようです。また、当時の海岸線に近く、遺跡の北側には湿地が広がっていたようです。



※大蚊里貝塚や五貫森貝塚は縄文時代晩期の貝塚で、縄文時代の遺跡がこうした低地に立地していることも非常に珍しい。一方、弥生時代の白石遺跡や欠山遺跡は台地上に立地している。

弥生時代の始まり

❖白石遺跡と遠賀川式土器

豊橋市で最も古い弥生時代前期の遺跡は、石巻本町で発見された白石遺跡で、遠賀川式土器と呼ばれる土器が出土しています。

この土器を使った人々は、この地方ではじめて水田で稲作を行っていたようですが、短期間でムラは無くなったようです。

白石遺跡で出土した遠賀川式土器

※遠賀川式土器とは…九州北部から伊勢湾までの西日本に分布する弥生時代前期の土器の総称で、水稲耕作が西から東へ伝わり広がる様子を知るための目印となるもの。

❖瓜郷遺跡の出現

弥生時代中期（今からおよそ2000年前）になると、豊川下流の海岸近くに新しいムラが現れます。それが瓜郷遺跡です。

豊橋平野では、瓜郷遺跡は弥生時代の中心的な集落のひとつとなったようです。

瓜郷遺跡で出土した細頸の壺

瓜郷式土器

瓜郷遺跡から出土した最も古い弥生土器の一群を瓜郷式土器と呼び、この地域の弥生時代中期の指標となっています。

土器は、用途に合わせて壺・甕・鉢などの色々な形が作られました。中でも壺は、櫛状の道具で描かれた模様で飾られ、黒っぽい色をしているのが特徴です。瓜郷式土器以後にも、形や模様の異なるさまざまな土器が作られています。

瓜郷式土器の壺や甕

瓜郷式土器の模様

寄道式土器と欠山式土器

瓜郷遺跡では、寄道式土器や欠山式土器と呼ばれるこの地域の弥生時代後期の指標となる土器も出土しています。

寄道式土器は後期の中でも少し古く、欠山式土器はそれに続く時期に作られています。両者の土器はよく似ていますが、高坏の形の違いに特徴があります。

高坏（寄道式）　高坏（欠山式）

小型高坏

器台

手あぶり形土器

石で作った道具（石器）

弥生時代では、鉄や銅などの金属は非常に貴重なため、代わりに石で道具が作られていました。磨製石器は磨いて、打製石器は打ち割って作った石器です。弥生時代後期になると石の道具は少なくなり、金属でできた道具が多くなるようです。

【磨製石斧】木を切り倒したり、削ったりするための斧。
【石　包　丁】包丁ではなく、稲の穂を刈り取るための道具。
【石　　鏃】矢の先につけた矢尻で、狩猟具として使われた。チャートや安山岩という石で作られている。
【管　　玉】首飾りにした装飾品で、碧玉というきれいな石で作られている。

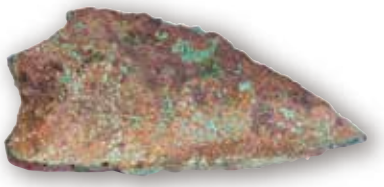
木で作った道具（木器）

弥生時代に木で作られた道具は、色々な種類のものがありました。水田や畑を耕す鍬や鋤などの農具、石斧の柄、弓矢、機織の道具、各種の容器、臼、杵、丸木舟などがさまざまな木材から作られています。

瓜郷遺跡からは、丸木弓、チキリ（機織の道具）、平鍬、堅杵、高杯などが出土しています。

金属で作った道具（金属器）

弥生時代は、日本で初めて金属の道具が使われた時代です。鉄で作られたものには、鉄斧、鉄鏃、鉄剣などがあり、青銅では銅鐸、銅矛、銅剣、銅釧などがあります。瓜郷遺跡では、銅鐸の破片が出土しています。



銅鐸の破片

銅鐸の祭り▶

骨で作った道具（骨角器）

瓜郷遺跡では、動物の骨や角で作った道具も多く出土しています。骨で作った銛・ヤス・釣針などの漁具、鹿の角で作った弓の飾りなどが見られます。

土玉や土錘

瓜郷遺跡では、土器以外に土玉や土錘と呼ばれる土製品も出土しています。土錘は、網のおもりに使われたようで、ちくわのような太い筒形になっています。

土玉

土錘

他の地域から運ばれた土器

瓜郷遺跡は、弥生時代中期から古墳時代の前期頃まで集落が続いて各地と交流があったようで、尾張・南信濃・東遠江などでつくられた土器も多く見つかっています。

尾張から運ばれたと考えられる赤彩土器

瓜郷遺跡関連年表

時代		豊橋と周辺の遺跡	主な出来事	日本の主な遺跡
	縄文晩期	大蚊里貝塚(大村町)		
		五貫森貝塚(大村町)	日本で米作り始まる	板付遺跡(福岡県)
300	弥生前期			唐古・鍵遺跡(奈良県)
		白石遺跡(石巻本町)	豊橋で米作り始まる	朝日遺跡(愛知県)
				吉野ケ里遺跡(佐賀県)
B.C.	弥生中期	**瓜郷遺跡が出現する**		池上遺跡(大阪府)
A.D.		篠束遺跡(豊川市)		
		橋良遺跡(柱三番町)		
100	弥生後期	**瓜郷遺跡が拡大する**		
		高井遺跡(石巻本町)		登呂遺跡(静岡県)
		欠山遺跡(豊川市)	卑弥呼が魏に使いを送る	
			倭国大乱	
300		**瓜郷遺跡が衰退する**		箸墓古墳(奈良県)
	古墳時代	権現山1・2号墳(石巻本町)		
500		三ツ山古墳(牟呂町)		大仙古墳(大阪府)(伝仁徳陵)
		馬越長火塚古墳(石巻本町)	仏教が伝来する	
		□明塚南古墳(石巻本町)		飛鳥寺(奈良県)
700	奈良時代	市道遺跡(牟呂大西町)	平城京に都を移す	
		市道廃寺(牟呂大西町)	国分寺・尼寺が全国に造られる	

史跡瓜郷遺跡指定理由

種別	史跡
名称	瓜郷遺跡
所在地	豊橋市瓜郷町寄道・前川
指定年月日	昭和28年11月14日
告示番号	文化財保護委員会告示第14号
指定基準	史1(貝塚、集落跡、古墳その他この類の遺跡)
管理団体	豊橋市(豊橋市今橋町1番地)

解説：瓜郷と称される地域にあり、豊川下流の沖積低地に位する。遺跡は当時の砂州上に存するもので、五様式を示す弥生式土器が層序的に包含されている。地域内に隅丸の矩形又は楕円形の床面をもつ住居の跡があり、又貝塚も存する。遺物は土器・石器・骨角器等が多数発見せられ、他に木製の各種農具等も出土し、低地性遺跡の特色を示している。この遺跡は、弥生式文化の中期及び後期を通じて聚落が継続的に存し、しかも貝塚をも構成しており、農耕生活のほかに漁撈と狩猟との生活の痕跡を示すものとして価値深いものである。

(文化庁：国指定文化財等データベースより)